

製品名: UBF (リン酸化 Ser484) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05602**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	85kDa

抗原情報

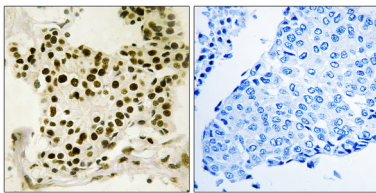
遺伝子名	UBTF
別名	UBTF; UBF; UBF1; Nucleolar transcription factor 1; Autoantigen NOR-90; Upstream-binding factor 1; UBF-1
遺伝子 ID	7343.0
SwissProt ID	P17480
免疫原	抗血清は、Ser484 のリン酸化部位周辺のヒト UBF 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 451-500

背景

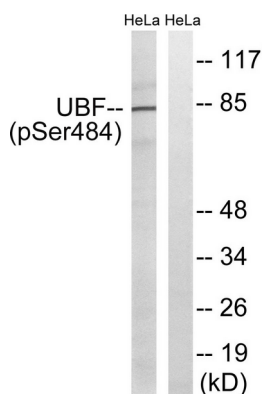
この遺伝子は、HMG ボックス DNA 結合タンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、リボソーム RNA 転写において、転写開始前複合体の主要構成要素として重要な役割を果たし、RNA ポリメラーゼ I の rDNA プロモーター領域へのリクルートを媒介します。コードされているタンパク質は、クロマチンリモデリングと pre-rRNA プロセッシングにおいても重要な役割を果たす可能性があり、その活性はリン酸化とアセチル化の両方によって制御されています。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。この遺伝子の疑似遺伝子は、3 番、11 番、X 番染色体の短腕と 11 番染色体の長腕に位置しています。[RefSeq 提供、2011 年 8 月]、機能: リボソーム RNA 遺伝子プロモーターを認識し、種特異的因子 SL1 との協調的相互作用を介して RNA ポリメラーゼ I による転写を活性化します。上流制御エレメントに特異的に結合する。、PTM:PIK3CA によってリン酸化され活性化される。、類似性:6 つの HMG ボックス DNA 結合ドメインを含む。、サブユニット:ホモ二量体。IRS1 および PIK3CA に結合する。、

研究分野

画像データ



UBF (リン酸化 Ser484) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



カリキュリン A 50 ng/ml 30 分処理した HeLa 細胞ライセートの UBF (リン酸化 Ser484) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。